

Weekly Michael's News

2017年4月10日発行 No.31

<今週の聖句>

『さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。』
(新約聖書 マタイによる福音書 第27章 45～46節)

<2017年度の歩みを始める神戸国際大学!! 心を整える始業礼拝&新任教職員就任式!!>

4月を迎え、桜前線の上昇と共に、各地で新しい歩みが始まっています。ここ、神戸国際大学も先週の月曜日に9名の新しい仲間を加えて新年度のスタートを切ることができました!! 午後に行われた始業礼拝では、前田理事長の奨励から、改めてこの大学の土台である建学の精神「神を畏れ 人を恐れず 人に仕えよ」の言葉に立ち返る必要性が説かれました。その後行われた新任教職員就任式では、一人ひとりに聖書が手渡されました。今年度、新しく赴任された教職員は以下の通りです。滝本 幸世さん(経済学部専任講師)、柿花 宏信さん、武内孝祐さん、中越 竜馬さん、中西亮介さん(リハビリテーション学部助教)久木田 徹さん、山下 剛充さん(管理運営C職員)、永田裕紀さん(入試広報C職員)、竹内 章さん(教学C職員)どうぞよろしくお願いいたします!!



手渡される聖書こそ職務の証

<与えられた恵みの喜びと使命を胸に刻む…。2017年度入学式を挙行!! >

新しいスタートと言えば、もう一つ欠かせないのがやっぱり「入学式」!! 4月6日(木)に神戸国際大学の2017年度入学式が、東灘区うはらホールで執り行われました!! 例年のように午前が経済学部、午後にリハビリテーション学部と分けて行われていますが、今年は経済学部の入学生が多かったため、会場はほぼ満員状態!! 少子化と経済不況が続く中、私立学校にとっては学生確保の難しさが叫ばれていますが、このように多くの学生を世界中から迎える事ができた、その根底に流れている大きな見えない力に深く感謝したいと思います。新しい歩みをこのKIUで始められる一人ひとりに主の導きが豊かにありますよう心から祈ります!!



会場はほぼ満員!! 感謝感激!!



喜びと同時に、与えられた使命を語る下村学長

<入学後息つく間もなく大切な戦いへ…。ハンドボール部の春季リーグ戦壮行礼拝を挙行!!>

新しいスタートは、始業や入学など華やかなものばかりではありません!! 体育会活動を行っている学生にとって、春は新しい戦いの始まりでもあります!! 先週金曜日に、大会出場を控えたハンドボール部の健闘を祈るため壮行礼拝を行いました。大会用ジャージに身を包んだ学生たちは精悍な瞳を輝かせながら、大きな声で挨拶をしてくれました。西畑監督の激励にもあったように、目標はリーグ全勝で昇格を果たすこと!! 主将の深松君を中心に、悔いの無いプレーで夢を掴み取ってきて下さい!!お祈りしています!!



新入生も含め総勢 21 名!! 頑張れ!!

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

4月3日(月) 前田 次郎(理事長)

(始業礼拝&新任教職員就任式奨励)

始業礼拝、そして新しく神戸国際大学で働かれる皆さんを迎えて、今改めて想起したいのが、この大学の建学の精神である「神を畏れ 人を恐れず 人に仕えよ」である。この言葉を残したのは学院創設者の八代斌助師父であり、その理念は師父の信念、教育観、そして生活観から生じている。しかし、それらはもっと深い所で先ほど贈呈された聖書と繋がっている。聖書は、時代や国・文化を超えて、人々にメッセージを伝え続けてきた。社会、家庭、教育の状況をひっくり返して、この聖書は私たちに「おまえはそれでいいのか?」と問いかけて来る。教育という現場で働く者として、今一度、この聖書から発せられる問いかけに、耳を、心を傾けたい。同時に聖書は私たち一人ひとりがかけがえのない「Only ONE」であり、「Only YOU」である事を告げている。この学び舎での働きは、部署や形などそれぞれ多岐にわたるが、遣わされている一人ひとりが大切な存在である事を覚えながら、新しい年度の歩みを共に進めていきたいと願う。

4月6日(木) 下村 雄紀(学長)

(入学式 式辞)

新入生の皆さん、ご入学おめでとう。私が学生の頃に学んだ言葉の中に「求めよ、さらば与えられん」という聖書からの引用があった。「捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば開けてもらえるであろう。」と続くが、これから四年間、皆さんがこの学び舎で大学生活を送りにあたり、この言葉を贈りたい。時代は大きく変化し、大学の門は広く開放されている。しかし、大学での学びは当たり前ではない。保護者の温かい理解と庇護の下で、幸運にも学ぶ機会を得られた皆さんには、何が求められているのか考える良い機会として欲しい。神戸国際大学は、半世紀前にキリスト教精神の下で、経済学を中心として「国際的人材を育成する」ために創設された。その志を継ぎながら、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアと隣国である中国、韓国、台湾に加えて、日本企業の進出が著しい東南アジア諸国の大学とも学術・教育協定を結び、海外に開かれた大学へと変貌を遂げている。本日の入学式に、各国の留学生を迎えられた事に大きな喜びを感じると同時に、本学はキャンパスそのものがグローバルな世界、そこで創造性豊かな国際感覚をもつ人間へと成長してもらいたい。言い換えれば、「求めれば」そこに世界が広がっているのだ。これからの四年間、社会や世界で己が何をすべきか、勉学や日々の活動を通じて、それぞれの役割を見出して欲しい。求め続け、捜し続け、門をたたき続けることで、皆さんの学生生活が実り多きものであることを心から祈っている。

(文責:野間 光顕)